

II 調査結果の概略

■回答者の属性

《居住歴、回答者》

- 刈谷市での居住年数「10年以上」の割合は、就学前児童の母親が38.4%、父親が47.9%で、小学生児童の母親・父親ではともに6割を超えています。
- 調査票の回答者は、就学前児童、小学生児童ともに「母親」が9割以上を占めています。

《日頃お子さんをみてもらっている状況》

- 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人は、就学前児童では、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が26.7%、小学生児童では27.5%で、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」ではともに6割前後と、身近な親族を頼る人が多くなっています。

《子育てや教育についての相談》

- 子育てや教育について気軽に相談できる人や場所について、「はい」（相談できる人がいる・場所がある）が就学前児童は92.6%、小学生児童は86.9%となっています。
- 相談先は、就学前児童、小学生児童ともに「祖父母等の親族」「友人・知人」がそれぞれ8割前後で、専門機関より身近な人に相談する人が多くなっています。

■保護者の就労状況

《保護者の就労状況》

- 保護者の就労状況について、父親では就学前児童、小学生児童ともに「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労している」が9割以上を占めているのに対し、就学前児童の母親では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が54.0%となり、出産等を機に離職した人が半数以上みられます。
- 小学生児童の母親では「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労している」が就学前児童と比較して高く、子どもの年齢が上がるにしたがい、再就職している母親が多くなっていることがうかがえます。
- 就労日数、就労時間について、1週当たりの就労日数は就学前児童、小学生児童の母親・父親のいずれも「5日」が最も多くなっています。1日当たりの就労時間では、母親、父親間で大きく差が出ており、父親で10時間以上働いている人が就学前児童、小学生児童いずれも7割近くみられます。
- パート・アルバイト等で働き続けることを希望する人の割合は、就学前児童の母親で41.1%、小学生児童の母親で48.1%となっています。また、パート・アルバイトなどで就労している人のフルタイムへの転換希望について、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせると、就学前児童の母親で34.5%、小学生児童の母親で24.8%となっています。
- 現在就労していない人の就労意向については、「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」が就学前児童の母親で42.8%、小学生児童の母親で32.3%となっており、現在働いていなくても、条件が整えば働きたい希望のある母親がいることがうかがえます。なお、一番下の子どもの年齢は、就学前児童では1歳児が2.0%、2歳児が2.4%となっており、全体では3歳児以上が94.3%を占めています。

■平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

《平日に幼稚園や保育所などを利用している人の状況》

- 平日に幼稚園や保育所などの施設やサービスを定期的に利用している人は、全体の 58.7%となっています。
- 年齢別にみると、3歳児以上は9割以上、1歳児及び2歳児は3割前後、0歳児は約1割の利用がみられます。
- 利用している施設やサービスは、「幼稚園」「認可保育所」の割合が51.3%、32.4%と高くなっています。
- 幼稚園や保育所などの利用日数の現在と希望を比較すると、現在・希望ともに「5日」が多くなっています。
- 幼稚園や保育所などの場所について、「刈谷市内」が91.1%を占めています。

《幼稚園や保育所などを利用していない人の状況》

- 平日に幼稚園や保育所などの施設やサービスを定期的に利用していない人は、全体の 40.2%となっています。
- 利用していない理由については、「子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で利用する必要がない」が64.8%、「子どもがまだ小さいため」が47.6%となっています。

《今後の利用意向》

- 現在の利用状況に関わらず、平日に「定期的に」利用したいと考える施設やサービスの割合について、「幼稚園」51.7%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」40.1%、「認可保育所」41.3%となっています。
- 幼稚園や保育所などを利用したい場所について、「刈谷市内」が93.9%を占めています。
- 0歳児から2歳児でも「幼稚園」を希望する割合が4割から5割以上あることから現在の年齢の利用希望の他に、将来の利用希望も含まれていることがうかがえます。

■地域子育て支援拠点事業の利用状況について（就学前児童）

《地域子育て支援拠点事業の利用状況・利用意向》

- 平日に幼稚園や保育所などを利用していない人に限定した結果をみると、「地域子育て支援拠点事業」を利用している割合は48.9%で、約半数が利用している現状となっています。
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向について、利用状況と同様、平日に幼稚園や保育所などを利用していない人に限定して結果をみると、『利用意向有』（「利用していないが、今後利用したい」と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を合わせた割合）が50.3%となっています。

■土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

《休日の幼稚園や保育所などの利用希望》

- 土曜日と日曜日・祝日の幼稚園や保育所などの利用希望について、「利用する必要はない」が土曜日では73.3%、日曜日・祝日では80.4%となっています。
- 利用したい理由としては、「月に数回仕事が入るため」が47.9%、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が37.3%、「息抜きのため」が33.6%となっています。

《幼稚園利用者の休日の幼稚園や保育所などの利用希望》

- 幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の幼稚園や保育所などの利用希望については、『利用希望有』（「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」と「休みの期間中、週に数日利用したい」を合わせた割合）が56.4%となっています。

■病気の際の対応について

《病児・病後児保育の利用状況》

- 子どもが病気やけがで幼稚園や保育所を利用できなかった、あるいは学校を休まなければならなかった場合の対処法について、就学前児童、小学生児童ともに「母親が休んだ」がともに46.1%となっています。
- 父親が休んだ、あるいは母親が休んだ人で、その際に「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思ったかについて、就学前児童の利用意向は30.8%、小学生児童の利用意向は17.3%となっています。

■不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

《不定期の一時預かり等について》

- 就学前児童で、「利用していない」と回答した割合は79.3%を占めており、理由としては「特に利用する必要がない」が77.6%となっています。
- 今後の利用意向については、「利用したい」が就学前児童は37.7%、小学生児童は32.4%となっており、目的としては就学前児童が「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が、小学生児童が「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」がそれぞれ69.1%、65.5%となっています。

《泊まりがけの預かりについて》

- 保護者の用事により子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらった経験は、就学前児童18.6%、小学生児童18.8%が「あった」と回答しており、その際の対処法については、いずれも「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」の割合が高くなっています。
- 子どもを親族・知人に泊まりがけで預けた際の困難度は、『困難』（「非常に困難」と「どちらかという困難」を合わせた割合）は、就学前児童が48.8%、小学生児童が42.9%となっています。

■小学校就学後の放課後の過ごし方について

《放課後の過ごし方（小学生児童）》

- 小学校低学年の放課後の過ごし方について、「自宅」が77.0%、「習い事」が66.0%となっています。
- 放課後児童クラブを利用している割合は、21.1%となっています。

《小学校入学後の放課後の過ごさせ方の希望（就学前児童）》

- 小学校入学後の放課後の過ごさせ方の希望について、「自宅」は低学年の時が60.3%、高学年の時が61.1%、「習い事」は低学年の時が56.2%、高学年の時が69.0%となっています。

《放課後児童クラブの利用希望》

- 放課後児童クラブの利用希望について、就学前児童では、低学年の時が33.0%、高学年の時が26.8%となっています。小学生児童では高学年の時が17.9%となっています。
- 放課後児童クラブの利用を希望する人について、利用希望日数は「5日」が50.4%となっています。

■育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）

《育児休業の取得について》

- 育児休業の取得状況は、母親で27.0%、父親で1.6%と差がみられます。
- 育児休業を取得していない理由について、母親では「子育てや家事に専念するために退職した」が50.0%、父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど制度を利用する必要がなかった」が43.6%となっています。父親では、「仕事が忙しかった」35.6%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」34.5%があげられており、職場における理解の低さにより、取得を断念している状況がうかがえます。
- 育児休業取得後、母親の職場への復帰について、「希望より早く復帰した」が50.0%となっています。希望より早く復帰した理由については、「希望する保育所に入るため」「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」がそれぞれ3割を超えています。

《短時間勤務制度の利用について》

- 母親の短時間勤務制度の利用について、43.8%の母親が「利用した」と回答しているものの、26.4%の母親が「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答しています。利用しなかった・利用できなかった理由としては、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が58.2%となっています。

■子育て全般について

《子育て全般について》

- 市が実施している子育て支援サービスについて、認知度は「子育て支援センター・子育て広場」「はぐみんカード」「生後4か月までのあかちゃん訪問」がそれぞれ 93.5%、90.6%、90.0%と高く、利用状況も7割弱から8割強となっています。また、満足度は、『満足』（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）が「臨時保育室」「生後4か月までのあかちゃん訪問」で7割を超える評価を受けています。
- 利用したことはない方の今後の利用意向について、「防犯メール配信サービス」「はぐみんカード」がそれぞれ 63.8%、59.1%と、個別ですぐに利用できるサービスへの興味が高くなっています。
- 市における分野別満足度は、『満足』（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）が就学前児童では「妊娠・出産・育児期の健診の利便性」が 60.0%、「小児医療サービスの利便性」が 59.9%、小学生児童では「小児医療サービスの利便性」が 53.7%となっています。